

分野：(3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査
② 予防事業対象地域を含む気管支ぜん息等の有症率と動向等

(3)-②

申請課題名：予防事業対象地域を含む気管支ぜん息等の有症率と動向等に関する検討

調査研究代表者氏名：手塚 純一郎

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 環境保健対策の推進への貢献度	3人	3人	0人	0人	0人	4.50
(2) 研究成果目標の達成度	0人	6人	0人	0人	0人	4.00
(3) 研究計画の妥当性	1人	4人	1人	0人	0人	4.00
(4) 研究内容の独自性	2人	2人	2人	0人	0人	4.00
(5) 社会・経済に対する貢献度	2人	4人	0人	0人	0人	4.33
個別評価(第3評価):(1)(2)(4)(5)の平均						4.21
(6) 総合評価(第2評価)	3人	3人	0人	0人	0人	4.50
全体評価(第1評価):(1)～(6)の平均						4.22
2 記述評価						
委員 A	・成人における疫学調査手法は今のままでは信頼度が薄いのが欠点である。 ・小児は疾患相互関係を分析してもらいたい。第Ⅴ相でのBA有症率の低下の理由を詳細に分析すべきである。					
委員 B	小児に関しては回収率が高くn数も十分な内容を用いた解析である。喘息が他のアレルギー疾患と異なり減少に転じていることが引き続き観察されている。この現象は全国的なものか少なくとも複数の地域での検討結果の解析が必要だと考えられる。また減少していることの原因についても掘り下げて欲しい。喘息に先行するアレルギー疾患への治療がより広く実行されている事実はないだろうか？ 成人においては、喘息患者に喫煙者が多いことを示唆する内容のグラフが描かれている。そして禁煙に関して必ずしも恩恵があるというよりは有害であると解釈されかねない結果が一部で見られている。このあたりの考察は今後の展開に非常に重要であり、東京都の大気汚染の医療補助の際に行なっているアンケート調査で明確に喫煙と喘息の有病率や重症度に矛盾しない正の相関が繰り返し見られていることから本研究の結果について考察することが求められる。いずれにしても貴重なデータの集積であり、今後の個別化で検討すべきテーマについても示唆に富む結果が得られていると考えられる。					
委員 C	調査対象者のバックグラウンドがわからない調査のため、特に地域を比較する調査研究では、対象者のバックグラウンドの影響が不明であり、この調査方法の限界ではないかと思われる。					
委員 D	・経年的に極めて重要な研究成果が得られている。(小児)。 ・当初の計画通り、すすんでいる。 ・是非、しかるべきジャーナルにパブリッシュされたい。					
委員 E	地域社会における小児気管支喘息・アレルギー性疾患の実相が明らかにされた。 また、喫煙が気管支喘息発症リスクとして極めて重要であることが改めて提示された。					
委員 F	小学生の有病率調査についても数十年にわたるデータの蓄積をベースとして、重要な情報を提供するもので高く評価できる。成人の調査についてもweb による方法の今後の展開の方向性を示すものとして貴重である。					